

僕らはあぶない探検隊

ちょうど30年前、旧チップ工場の道路向かいの山を伐採した。なだらかな斜面の3町歩位の山で、子供の頃はよく栗拾いをしたところだ。伐った広葉樹はほぼ全量木材チップとなり、山はハゲ山となった。その後、徐々に徐々に木が生えてきて、大きくなる様子を車で通るたびにじっと見ていた。今回、伐採跡地に入ってみることにした。

林床がきれいで歩きやすい。まあずいぶんと木が大きくなっている。朴、ブナ、カエデ、サクラ、コナラ、シデ、クリ・・・約20種類ぐらいの広葉樹の森が出来上がっていた。



これはウリハダカエデの株立ち。

しかし大きくなったもんだなあ。朴の木も天に向かって伸びている



日本の山はありがたい。伐って何もしなくてもこんなに天然更進で太くなってくれる。ありがとう。ありがとう。と言いながら帰り道についた。

伐り境の尾根を越えたら、な、な、なんと！栗の大木を発見！

しかも5本もある。まだ全然葉が出ていない。枯れているのではなく、ナラと栗は大木になるほど芽吹きが遅い。いやあ、これはまいったなあ。伐採していた当時は全く気がつかない。なんという出会いだろう。さっきまでの感謝の心に突然、材木屋の欲心が出てきた。しかし、5本全部伐るのは良くない。2本だけ伐って、3本は母樹（マザーツリー）として残そう。

そうすればこころへんも実生の栗の木がたくさん生えてきて、子供の頃のようにまた、栗拾いができるかもしれない。よかったなあ。めでたし、めでたし。



幸林ホームだより

このコーナーでは、幸林ホームで家を建てて頂いたお客様に小椋社長自らインタビューに伺い、住み心地などを伺っております。今回は、那須塩原市まで行ってきました。

廣田栄喜さん
・東京都八王子市出身
・栃木県那須塩原市在住
・木工家。
・自宅の向いに、御両親を呼ぶために家を作った。
・平成20年3月完成。平屋17.6坪。



現在の廣田家

Q. なぜ、(株)オグラ 幸林ホームに頼もうと思われたのですか？

A. きこりの店にずっと通っていたから、材木が豊富だと思った。それと、大黒屋さんの仕事を、敷地の安全性に問題があるからとオグラさんが断られたでしょう。（当時、廣田さんは板室温泉大黒屋に勤務）それを見て、この会社は逆に信頼できると思った。

Q. 実際に住まわれているのはお母さんですが、どんなことをおっしゃっていますか？

A. 梅雨時に押入れに湿気がこもらない、カラッとしていて、家のどこにもカビが生えないから良いと言っていた。自分が感じるのは、冬あったかい家だということ。母のところへ行くと、ヒヤッとした感じがしない。

Q. 周りに、おしゃれな家がどんどん出てきて、昭和初期のような雰囲気のお住まいは、完全に浮いていますが、どうなんですか？

A. 自分は本物の材料が自然と古びていくのが好きだ。むしろ、時間が経つほど美しくなると思う。

この板も、築100年の味噌蔵を解体したものだが、なんとも言えない味がある。これで何を作ろうかと思案中。

☆ありがとうございました☆

